

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2673000127
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	長岡京ケアハートガーデン 西山の郷
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1 (電話) 075-958-6581

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年3月18日
評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	28 人	常勤 15人, 非常勤 13 人, 常勤換算	17.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造りスレート葺耐火建築造り 3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分
------	---------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円、80,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(200,000円、300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	260 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,810 円	

(4) 利用者の概要(2月10 日現在)

利用者人数	24 名	男性	0 名	女性	24 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.67 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会京都府病院、新河端病院、上田内科病院、中島整形外科医院、中村歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長岡天満宮の梅林に近く、竹林の道路沿いを少し入った静かな場所に「グループホーム西山の郷」が建っています。広いエントランスは明るく開放的でリビングにつながっており、食事時には利用者の方々と職員の賑やかな笑い声が響きわたっています。社員寮を改装して建てられ、1階と2、3階は少し造りが異なりますが、行事には集まり、3ユニットの交流が多く、ホームの全職員がどの利用者も見守っています。その為、理念である「画一性、押しつけの排除」を常に原点にして、会議ごとに振り返り、一貫したケア方針を継続することに努めています。また管理者は地域・行政・医療関係と積極的に連携を図り、非常に研究熱心で、研鑽を惜しまず、サービスの質の向上を目指し、職員全員が現状に満足することなく、利用者一人ひとりの充実感と安心感のある暮らしを支えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果は会議で話し合い、改善計画を作成して取り組んでいます。課題に上がった項目については、改善に向けて継続的に取り組み、具体案を会議で検討したり、実践につなげる努力をしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について全職員に伝え、今回の自己評価はユニットリーダーが会議で職員から意見を聞き、それを取りまとめてリーダーが作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、家族、地域住民、民生委員、地域関係施設長、地域包括支援センター、市役所介護課、部長、管理者、ユニットリーダーにより開催されています。会議ではホームの現状や評価の課題についての取り組み状況の報告、家族との意見交換の場とし、様々な視点からケアを振り返ることのできる双方向的な会議となるよう配慮しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2か月に1回季刊紙を発行し、行事の様子や日々の暮らしぶり、職員の入れ替え等を知らせたり、面会や電話で家族と直接会話する機会を多く持つよう配慮しています。意見や希望についてはできる限り迅速に応じるようにし、即決できない内容については、ミーティングや会議で話し合い、その対応策や検討状況、ホームの方針や理念を伝えて理解して頂き、家族の安心に繋げるよう努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幼稚園・小学校の行事や市の文化行事、地域の祭り等へ積極的に参加したり、やすらぎ支援員講座の開催や中学生の実習受け入れなど地元の方々との交流の場を広げています。日常の生活の中でも、近隣から野菜を頂いたり、老人会の案内をもらったりと、ホームが地域の住民として位置づけられる基盤を築いています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時に、設立者の思いを含め「個人の尊厳をたいせつに」「画一性、押しつけの排除」「地域社会との融合を図る」をホームの理念として皆でつくりあげ玄関に掲げています。地域との交流を意識しながら、常に理念に立ち返り、文言とのぶれがない姿勢を貫ける様努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リーダー会議、ユニット会議において理念を取り挙げ、職員間で話し合い、具体的な日々のケアについて意見の統一を図っています。また新人研修では理念についての項目を盛り込み、確実に理解してもらうなど、理念が反映されたサービスに職員全員が取り組めるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園・小学校の行事や市の文化行事、地域のガラシャ祭り等へ積極的に参加したり、やすらぎ支援員講座の開催や中学生の実習受け入れなど地元の方々と交流の場を多く持っています。日常の生活の中でも、近隣から野菜を頂いたり、老人会の案内をもらったりと、ホームが地域の住民として位置づけられる基盤を築いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価について全職員に伝え、評価の結果は会議で話し合い、改善計画を作成して取り組んでいます。課題に上がった項目については、改善に向けて継続的に取り組み、具体案を会議で検討したり、実践につなげる努力をするなど、外部評価をサービスの質の確保に活かしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族、地域住民、民生委員、地域関係施設長、地域包括支援センター、市役所介護課、部長、管理者、ユニットリーダーにより開催されています。会議ではホームの現状や評価の課題についての取り組み状況の報告、家族との意見交換の場とし、様々な視点からケアを振り返ることのできる双方向的な会議となるよう配慮しています。		

長岡京ケアハートガーデン西山の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢介護課に日常的に相談して交流を図っています。また認知症サポートケアリーダーとして管理者が講師や相談員を務めたり、やすらぎ支援員の実習を受け入れるなど、市に協力することで連携強化に繋がっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回季刊紙を発行し、行事の様子や日々の暮らしぶり、職員の入れ替え等を知らせています。金銭管理については出納帳を作り、1ヶ月に1回報告しています。普段から家族の来訪が多くあり、遠方の方にはFAXや電話で伝え、確認や協力を依頼しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と直接会話する機会を多く持つよう配慮しています。意見や希望についてはできる限り迅速に応じるようにし、即決できない課題については、ミーティングや会議で話し合い、その対応策や検討状況、ホームの方針や理念を伝えて理解して頂き、家族の安心に繋げるよう努めています。	○	玄関の開錠について、今後も引き続きドアの工夫や、ケアの方法を見つめ直すことで、家族にホームの理念と方針を理解してもらい、安心して頂けるようになる事を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の質の向上と満足度を重視する法人の方針のもとに、部長を含めての職員ヒアリングを実施し、一人ひとりの意向を聴き、資格手当の支給、職員レクリエーション、研修体制の整備などにより、チームケアの円滑化を図り、職員の離職を抑えることで、利用者へのダメージを防いでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の研修計画表が作成され、外部研修も希望により勤務体制の中で様々な研修に参加できる機会が確保されています。受講した研修内容は報告書を提出し、スタッフ会議で伝達研修を行い、働きながらの職員育成の体制が構築されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会議への参加や、やすらぎ支援員の講座に同業者が実習生として来所した際を交流の場として大切にしています。同業者との情報交換や相互評価を通してサービスの水準の向上に取り組んでいけるように努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のアセスメントでは興味を持たれている事や好みを家族から詳しく情報収集し、お試し入居制度を設け、徐々に馴染みながらの入居に移って頂けるように支援しています。状況により早期の入居になった場合は、本人に寄り添い、傾聴や家族の相談を多くする等の対応で安心感を持って生活して頂けるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に高齢者の尊厳を大切に思い、共に暮らすことで「生きる」「老う」を学びにして関わりを深め、「介護」ではなく「お互いが支え合う」関係づくりに努めています。家事や絵画、ダンス、作品展を通して、その方の隠れた才能を発揮される事もあり、職員が教えてもらう場面も日常的となっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて利用者との日々の会話などから、一人ひとりの好みや得意な事を把握し、職員間で話し合いながら検討、記録しています。また、その本人の意向を大切に、体調への配慮や見守りにつくし、思いがケアに活かされるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から意見や希望を聞き、月1回のユニット会議でカンファレンスを行い、職員の意見も反映したケアプランを作成しています。	○	家族の意向の項目は、わかりやすいように表記したり、欄を設けるなどの書式の工夫が望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回のアセスメントと評価により介護計画は最低3ヶ月ごとに見直しを行っています。特別な変化が生じた場合は、その都度現状に即した計画を作成し、家族にも同意を頂いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	学校の実習生の受け入れ、理美容店への送り迎え、個別の買い物等に対応しています。管理者は認知症の講習会の講師を担ったり、医師のケア学会に参加するなど、地域のチームアプローチに力を注ぎ、医療と協働で利用者の病状に合わせた質の高いケアを目指しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する今までのかかりつけ医に往診に来てもらっています。緊急時でも対応可能で、ほとんどの医師が24時間連絡が取れる体制にあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族、医師、ホームとの三者による終末期ケアについて、契約書を交わすようになっていました。利用者の重度化が進み、会議や研修でターミナルケアについての議題が多く取り上げられるようになり、訪問看護開始に伴い、職員間で話し合いを深めながら、方針の打ち出しを進めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人のマナー研修があり、言葉がけや対応について職員は常に理念に振り返り、気がついた時は職員同士でも声をかけあうように心がけています。記録物等の個人情報については鍵のかかる事務所に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は作っておらず、個々の利用者のペースで生活できるよう、意志を確認しながら、役割や楽しみごとの支援につとめ、本人の状態に配慮しながら柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、片づけ、洗い物等を職員と利用者が一緒に行っています。職員も利用者と同じテーブルで同じ食事を会話を楽しみながら摂っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めずに希望に合わせて入浴できるように支援しています。日によって入浴拒否のある方にはその方の気分のタイミングに合わせてお声かけをしたり、清拭で対応するなどして無理強いはしないように配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、編み物、習字、絵画、花の水やり、新聞配りなど、その方の好きだった事や趣味、役割を引き出して、楽しみごとのある暮らしを支援しています。作品作りはボランティアの方が来て日常的に行われて、年1回の作品展を利用者の方々も楽しみにされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園や、ホーム周りの散歩、買い物、ベランダにテーブルを置いてのお茶会等、その日その日の希望で戸外での活動をたくさん取り入れるようにしています。嵐山や亀岡までの日帰り旅行も実施しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で鍵をかけないケアについて常に話し合い、その弊害を理解し、日中開錠のケアに取り組んでいます。外出傾向にある利用者には見守りを徹底し、ドアを工夫して安全確保に努めながら自由な暮らしを支えています。開錠を心配される家族がおられても、すぐに施錠の対応をとるのではなく、対策と理念の説明を行い、安心に繋げ理解して頂けるように努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、避難訓練を年に2回、昼夜想定で実施しています。管理者が随時地域の方に協力依頼の声かけを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理はホームの職員である栄養士がサポートしています。一人ひとりの状態に合わせて食事・水分量や形状に配慮し、チェックシートに記録しています。医師の指示のある方は、水分量等も合わせて細かくチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は広いエントランスが開放的で、季節の花が生けられ訪問しやすい明るい雰囲気になっています。2、3階のリビングは配置や採光が工夫され、ゆったりと暖かい居心地の良い空間になっています。リビングから居室が見えにくい配置ではありますが、かえってプライバシーが守られほっとできたり、退屈になってリビングへ集まったりと自由な暮らしの提供につながっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し使い慣れた家具等を持ってきてもらえるように話しています。ベッド、布団を選んで頂いたり、好きな飾り物や写真を置いて、その人らしい居室になるように工夫しています。		